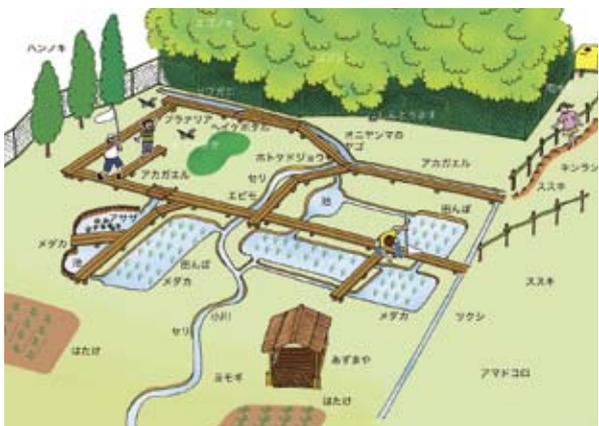


SCHOOL DATA

〒274-0816 船橋市芝山7-39-1
TEL 047-463-5331 FAX 047-467-3216

■生徒数/930人 ■教職員数/50人 ■周辺環境/住宅地

(平成21年5月1日現在)



【芝山湿地でオニヤンマヤゴを探す飯山満小学校児童】

ビオトープの概要

- 場所/校内敷地最北端
- 面積/600㎡
- 設置者/学校
- 設置した年/1999年
- 直近の改修年/2008年
- 主な管理者/生物教師、科学研究部生物班



【ビオトープの構成】

斜面林（船橋市の保存樹林）、湧水、湿地（ヨシ原）、小川、池、水田、草原、ススキ原、木道、東屋、雨水タンク

に訪れ生息できるように、また、飯山満南小学校とはヘイケボタルが飯山満南小学校ビオトープにも生息できるように交流が生まれている。

平成21年度、全国学校ビオトープコンクール2009で日本生態系協会会長賞を受賞した。

管理・活用する上での、教職員・児童生徒の感想

●ビオトープが学校にあることは有意義だが、担当者が転勤すると維持管理が行われなくなり、いつの間にか荒れてしまい、教育活動にも利用されなくなってしまうことを他校で見てきた。しかし、本校ではビオトープが11年間も継続していて、しかも担当者が退職しても後任がちゃんと赴任してきたことは正直びっくりしている。（本校職員）

●ビオトープを普及するなら、このようなことが当たり前のように行われていく必要がある。（本校職員）

●ビオトープ「芝山湿地」で見たヘイケボタルの光は一生忘れないと思う。母校でホタルを見られることに感謝している。（生徒）

●学校にいろいろな生物が生息するビオトープがあり、それが昔どこにでもあった風景の場所で、こんな環境が学校にあることは生徒の心に微妙によい影響を及ぼすと思っている。大変でしょうが、これからも、このような場所を守ってほしい。（保護者）

児童・生徒等の変容

ビオトープを設置して11年目である。この間、生物教師と科学研究部が中心になって、ビオトープの維持管理、ビオトープの生物（ヘイケボタル、ニホンアカガエル、昆虫類）の調査研究を続けてきて、その生徒の中から生物系、環境系、農林水産系の分野に進学していく生徒が増えた。また、ビオトープがあることが学校の特色のひとつになっており、そこでの活動がいろいろな形で報道されている。生徒の中にはビオトープがあること、そこが地域の生物多様性を守る場所になっていることを誇りに思ってくれる生徒が出てきている。「芝山高校にはビオトープがあるから進学したい」という中学生も現れ、今年度実際に入学して現在科学研究部で活動している。

地域住民・NPO・近隣学校等との連携

ビオトープの維持管理については生物教師と生徒で行っているが、ビオトープに続く校内斜面林の再生については、芝山十町会街づくり協議会の皆さんと連携して作業している。隣接する船橋市立飯山満小学校、飯山満南小学校にもビオトープがあり、飯山満小学校とは本校ビオトープで繁殖するオニヤンマが飯山満小学校にも産卵

平成20年度に実施した地域住民、近隣の児童・生徒向け観察会

	日時	形態・主催	講師・対象	参加人数
ホタル鑑賞の夕べ	7月後半	ヘイケボタルの観察会 主催：本校科学研究部生物班	講師：生物教師、科学研究部部員 対象：近隣のケアハウス入所者、自治会等の希望者	100名
湿地見学会	6月、8月、10月	芝山湿地全体の観察会 主催：本校	講師：生物教師 対象：江東区市民の会、老人会、自治会等の希望者	50名
トンボ講演会とオニヤンマヤゴの採集	11/22	講演会は室内、採集が芝山湿地 主催：本校	講師：互井賢二氏（行徳トンボ研究室） 対象：本校生徒希望者、船橋市立飯山満小学校生徒保護者の希望者	80名
ニホンアカガエルの講演会と観察会	2/21	講演会は室内、観察が芝山湿地 主催：本校	講師：長谷川雅美氏（東邦大学） 対象：本校生徒希望者、周辺住民の希望者	110名